ウオッチング多摩の会　代表　神津幸夫

パルテノン多摩「多摩市立複合文化施設等大規模修繕工事」については、市民は何時・誰が決めたのか知らぬ間に、突然80億円の修繕費が現れ驚いています。

昨年来、行政・議会はこの計画を進め「基本計画・基本設計」「発注者技術支援（CM）」「特定天井耐震改修工事」を２億円超える予算でその作業が進められています。

議会は本年3議会で、この予算に対し

① 当該予算の上限を強く意識し可能な限り削減の努力をすること。

② この予算は基本計画・設計費用であるため拙速に事業を進めず多摩センター地域全体の活性化につなげ市民への説明責任を果たすこと。

③ 利用者のみならず市民及び議会との情報共有及び意見の反映に努めること。

と付帯決議をしています。当該予算の議会としての上限額もなく、努力・説明責任・務めるという曖昧な条文で終わっています。

行政は、基本計画策定（市民）委員会で市民の意見を十分に汲み取るとの建前で５人の公募市民委員と3人の有識者で基本計画が進められ、8月末までに4回開催されました。この委員会を傍聴する限りでは、基本計画策定とは言っても既に基本路線は敷かれており、利用者の改善要望を聞く会にしか見えず、第4回の委員会で初めて 80 億円の予算が業者から提示されました。

予算提示後、２人の委員の発言として一人の女性の方は「私の生活感からするととても想像できない金額でこの予算をどうかと言われても何とも言えない」もう一人の女性の方は、この場（タイミング）で言うことでないかもしれないという前置きで「このパルテノンで何をしたいのか、何がやれるのかといった市民が話し合うことが要るのでは」と。

この状況を皆さんはどう受け止めるでしょうか。この方が言われることが基本計画のスタートであるべきだったのではないでしょうか。

公共施設再配置計画、行政のハード先行型「場所ありき建物ありき政策」がこのパルテノン大改修にも露呈されてしまいました。

市長が掲げる基本政策「市民がデザインするまち多摩」の理念は何処に行ったのでしょうか。今の状況では「行政がデザインするまち」に変更し、その案を市民に説得・納得してもらうとした方が素直に受け入れられ、これから予定されている市長の説明会、シンポジュウム、アンケート、パブコメ等なども得心の行くものとなります。

ニュータウン誕生から右肩上がりの時代背景をしたこれまでの30年と、人口減・歳入減・扶助費増等などの右肩下がりのこれからの30年を展望しなければならないリーダーは、過去の延長腺の経験則で考える愚か者ではなく、過去を歴史として学ぶ賢者であってほしい。

既に着々と進められているこの行政計画案に、議会において全会派一致議決されている付帯決議が本アンケート等でより市民意見を反映した議会計画案として対峙、熟議を尽くす議決を切望します。東京都をはじめ我が国の地方議会の在り方が今問われています。行政チェック・追認議会から、その果たさなければならないもう一つの重要な役割「政策立案」を機能させる絶好のチャンスが訪れています。